




スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。

そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。

またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- 「**必読！安全運転のために**」および次のシンボルマークで示したところは重要ですので、しっかりお読みください。

 警告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
 注意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
 アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

- ◇ お車の正しい取扱い方法
- ◇ 日常点検、定期点検
- ◇ 保証内容と保証期間
- ◇ 保証書の発行 《保証書登録票の記入・捺印》

- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。ご了承ください。

☆ この車は、平成28年排出ガス規制適合車です。

必読！安全運転のために	運転の前に.....2	運転中は.....5	車の整備など.....8
取扱いの方法	各部の名称.....10 メータの見かた.....12 スイッチの使いかた.....18 ハンドルロック.....25 シート.....25	ヘルメットホルダ.....26 トランク.....26 フロントラック.....27 フロントフック.....27 USB ソケット.....28	ピリオンフットレスト.....28 ガソリンの給油.....29 U字ロックホルダ.....30 リヤショックアブソーバ.....31
正しい運転操作	エンジンのかけかた.....32 発進のしかた.....34	ブレーキの使いかた.....36 止まりかた.....37	
お車の点検	日常点検、定期点検.....40	日常点検項目.....41	
簡単な整備	簡単な整備.....42 スロットルケーブル.....42 フロントブレーキ.....43	リヤブレーキ.....44 エンジンオイル.....46 エアクリーナ.....48	ヒューズ.....50 バッテリー.....53 タイヤ.....55
お車の手入れ	洗車.....58 メータディスプレイ.....59	スロットルケーブル ブーツ.....59 つや消し塗装.....59	アルミホイール.....60 保管のしかた.....60 環境を保護するために.....61
サービスデータ	主要諸元.....62	サービスデータ.....63	車台番号.....63

必読！安全運転のために

運転の前に

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

車の購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、慣れるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

重要な事項を書いたラベルが車に貼られています。これらの注意をいつもお守りください。



- ◇ 転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。
- ◇ 取扱説明書をよくお読みください。

■ 安全な運転は正しい服装から

- ヘルメットを必ず着用してください。PSC、SGまたはJISマークのある二輪車用ヘルメットを必ずかぶり、あごひもをしっかり締めましょう。ヘルメットは頭にしっかり合って圧迫感のないものをお選びください。
- 保護具や保護性の高い服装を着用してください。
- ヘルメットシールドまたはゴーグルを使用してください。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用してください。万一のとき身体への衝撃を軽減します。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどは運転操作の邪魔になります。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。



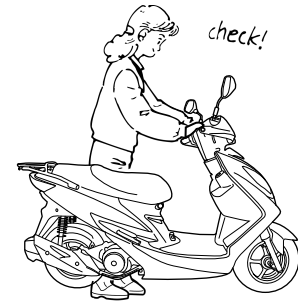
▲ 警告

- ヘルメットを正しくかぶってください。正しくかぶらないと事故の際、死亡または重大な傷害を負う可能性が高くなります。
- 運転者と同乗者は、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。

- うしろの席に乗る人は、背丈の長いジャケットやコートを着用しないでください。テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されて、後続の車に見落とされるおそれがあります。やむを得ず着用する場合は、ジャケットやコートのすそをお尻の下に敷くなどして、テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されないようにしてください。

■ 点検整備をしましょう

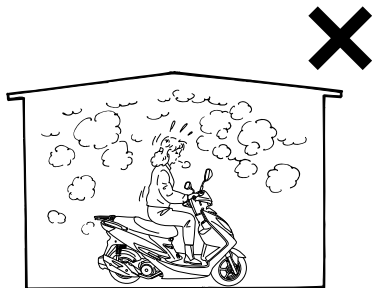
事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。いつもと違う音やにおいがしたり、液漏れした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。



運転の前に

■ エンジンがかかるときは

風通しのよい場所でエンジンをかけてください。

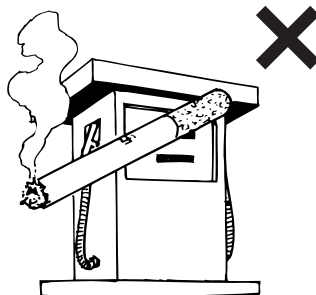


▲ 警告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージ中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

■ 給油するときは

● ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。

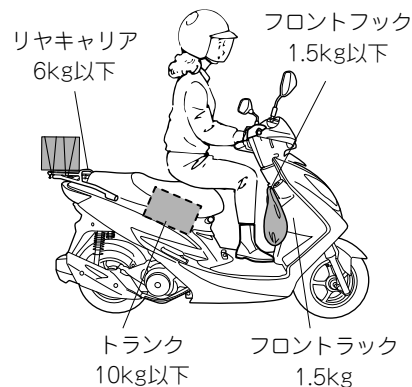


■ 乗車定員は2名

二人乗りでは通行できない道路区分もあります。また、二人乗りは年齢や経験年数の制限もあります。二人乗りに関する条件や交通規制をしっかりと守り、マナーのよい運転を心がけましょう。

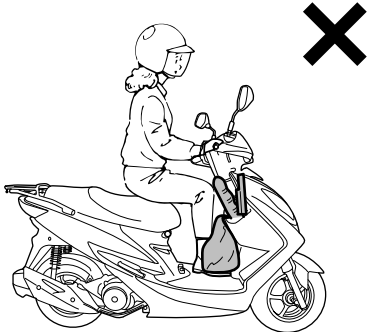
■ 荷物

- 荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。
- 荷物はゴムバンドなどでしっかり固定し、積み過ぎないようにしてください。
- 荷物の積載は下記重量までです。積み過ぎないようにしてください。
- 荷物は下記以外の場所に積まないでください。



▲警告

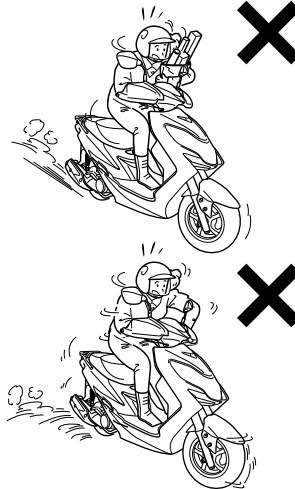
- フロントフックには車体からはみ出したり、足に当たったりするような大きな荷物は掛けないでください。走行やハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。
- フロントラックから荷物をはみ出さないでください。ハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。
- 荷物を積むときは、マフラやエンジンなどの高温になるところに荷物が触れないようにしてください。荷物や車両の火災の原因となるおそれがあります。



運転中は

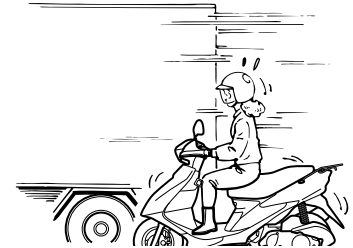
■ 乗りかた

- 運転中は両手でハンドルを握り、足をステップボードに置いてください。同乗者には両手で身体をしっかり固定させ、足は後席用フットレストに乗せさせてください。
- 急激なハンドル操作や片手運転は絶対にしないでください。横すべりや転倒の原因となります。



■ 風が強い日は

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。



■ 雨の日、雪の日は

- 路面がすべりやすいので急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。
- ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。

運転中は

■ 冠水した場合は走行しない

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店にご連絡ください。

また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- コネクタ、配線への浸水
- ドライブベルトの滑り
- ペアリングなどの潤滑不良
- ギヤオイルなどのオイル量および質の変化（オイルが白濁している場合は、水が混入していますので、オイル交換が必要です。）

注 記

冠水した場所や深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品の故障、ドライブベルトの滑り、エンジンの破損などの原因となります。

■ 駐車するとき

車から離れるときは、盗難抑止のため必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。

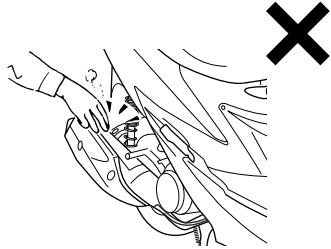
☞ 25ページの「ハンドルロック」参照

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平坦でしっかりした地面の場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けてください。
- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこな所、やわらかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分留意してください。

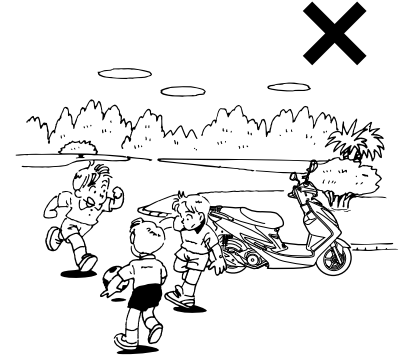
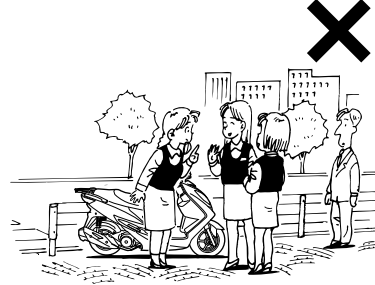
▲ 注 意

- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。
- マフラに内蔵されている触媒装置は高温になります。車の周りに枯れ草、木材、紙、油脂類などの燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。火災の原因となるおそれがあります。

- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどに触れないでください。



- 他の人がマフラ、ブレーキ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

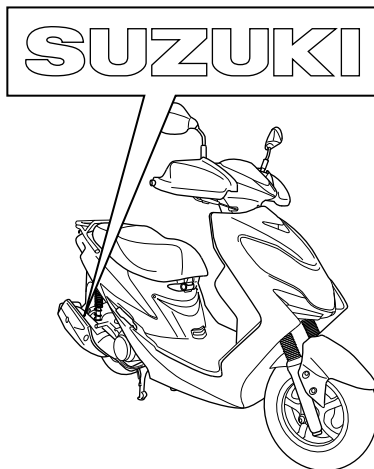


車の整備など

■ 不正改造はやめましょう

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、しいては車の寿命を縮めることとなります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

- マフラには、スズキ純正部品を表す“SUZUKI”マークが刻印されています。



- 自己流のエンジン調整、部品の取外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。純正部品には下記の表示があります。



- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラには排気ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。マフラを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、マフラを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。

■ 触媒装置について

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスの有害物質の排出量を低減します。特別な点検および整備は必要ありませんが、不適切な運転や誤った取扱いをすると触媒装置が異常な高温になり、触媒装置および他の関連部品が損傷する恐れがありますのでご注意ください。

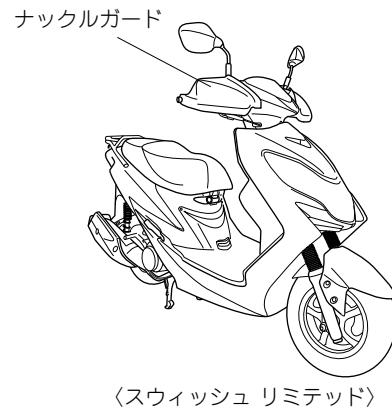
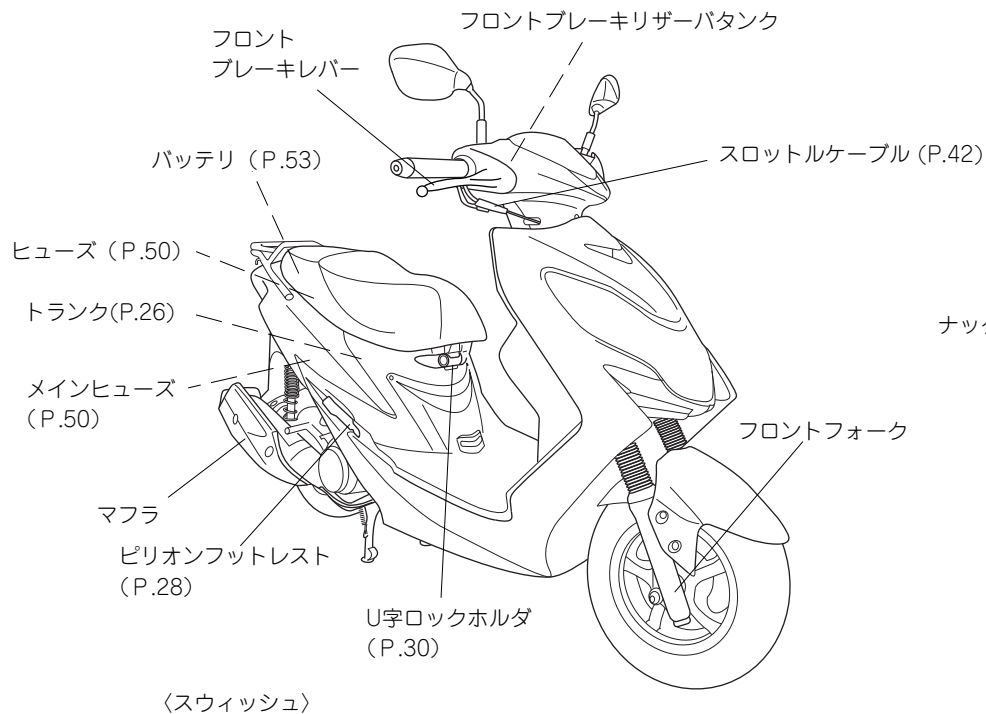
注 記

触媒装置および他の関連部品の損傷を避けるために、下記の注意事項をお守りください。

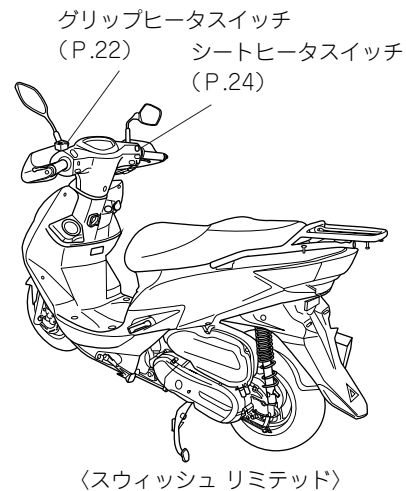
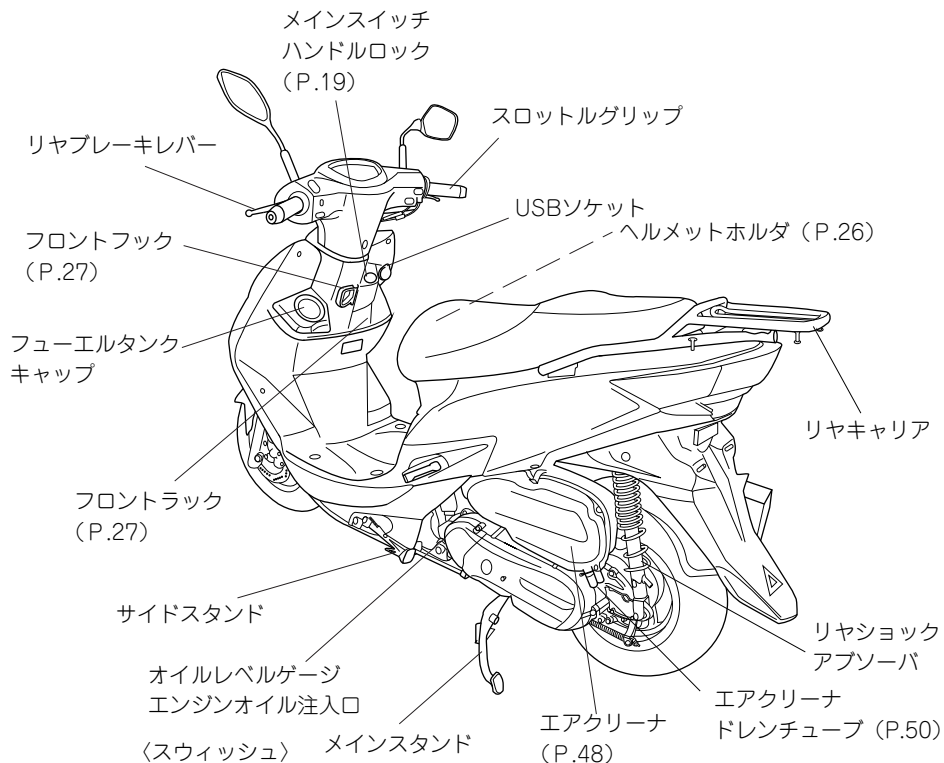
- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。
- エンジンの性能の低下や不調を感じたときはスズキ販売店で点検を受けてください。
- 走行中にメインスイッチを操作して、エンジンを停止しないでください。
- 診断テスト中などで、スパークプラグワイヤを取り外した状態でエンジンを始動しないでください。
- 不要な空ふかしや長時間のアイドリングは行わないでください。
- フューエルタンク内のガソリンを使い切ること（ガス欠）のないようにしてください。

取扱いの方法

各部の名称

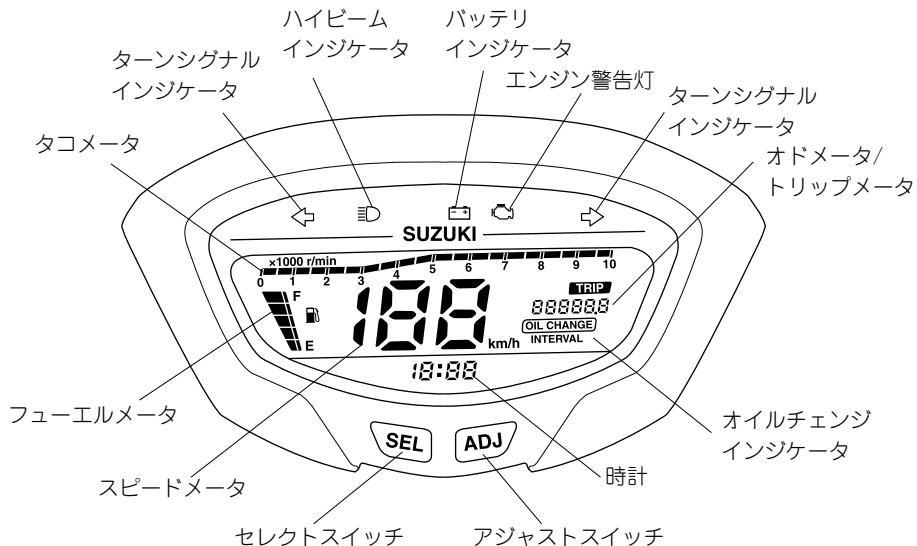


---部は見えない部分を示します。



---部は見えない部分を示します。

メータの見かた



メインスイッチをONにすると

- バッテリーインジケータが約3秒間点灯します。
- エンジン警告灯が点灯します。
- 全液晶ディスプレイセグメント表示 (チェックパターン表示) を行います。

▲ 警告

走行中にスイッチ操作を行なうと危険です。停止中に操作してください。

■ スピードメータ

車の走行速度をkm/hの単位で示します。

■ タコメータ

エンジンの回転速度を示します。

■ オドメータ/トリップメータ

メインスイッチをONにするとチェックパターンを約3秒表示後、オドメータもしくはトリップメータまたはオイルトリップメータを表示します。

- セレクトスイッチを押すと下図のように切り換わります。
- メインスイッチを OFF にしても設定は記憶されます。

<オドメータ>

000432

<トリップメータ>

TRIP
32

<オイルトリップメータ>

TRIP
000000
OIL CHANGE

<オドメータ>

- 走行した総距離をkmの単位で示します。
- オイル交換や定期点検などの目安となります。
- オドメータの表示範囲は、0～999999です。999999を超えると、オドメータは999999を表示し続けます。

<トリップメータ>

- リセット後の走行距離がkmの単位で表示されます。
- トリップメータの表示範囲は 0.0 ～ 9999.9です。9999.9を超えると0.0に戻ります。
- アジャストスイッチを約 2 秒間押しとリセットされ、“0.0”を表示します。

<オイルトリップメータ>

- オイルチェンジンジケータをリセットしたときの走行距離がkmの単位で表示されます。
- 次回オイル交換の目安になります。

メータの見かた

■ ターンシグナルインジケータ



ターンシグナルランプが作動すると点滅します。

■ ハイビームインジケータ



ヘッドランプが上向きになると点灯します。

■ 時計

時分を表示します。(12時間表示)

<時計の調整>

1. メインスイッチをONにしてオドメータまたはトリップメータを表示させてから、アジャストスイッチとセレクトスイッチを同時に約2秒以上押しと時計表示が点滅します。
2. セレクトスイッチを押し、時表示を調整します。
3. アジャストスイッチを押し、分表示を調整します。
4. セレクトスイッチとアジャストスイッチを同時に約2秒以上間押しと調整が終了します。

ⓘアドバイス

- メインスイッチOFFでも、メータには微小電流が流れ、電力を消費しています。長期間(2か月以上)乗らない場合は、バッテリーを外しておいてください。
- バッテリーを外したときは、時計を設定し直してください。

■ オイルチェンジンジケータ

エンジンオイルの交換時期をお知らせします。

初回は1,000kmで表示、リセット後は6,000kmごとに表示します。初回の1,000kmを過ぎると、6,000 ↔ 500kmの範囲で任意に設定することができます。

**OIL CHANGE
INTERVAL**

リセットのしかた

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. セレクトスイッチを押したままメインスイッチを**ON**にし約3秒間待ちます。**OILCHANGE**が3回点滅して消え、リセットされます。このときのオドメータの数値が記憶され、6,000km（または設定値）走行後に再び表示します。

ⓘアドバイス

- **OILCHANGE**が点灯したらオイルを交換し、リセットしてください。これにより次回オイル交換時期を表示することができます。
- 点灯前にオイルを交換した場合にも次回のオイル交換時期を正しく表示させるためリセットしてください。ただし初回1,000km未満でのリセットはできません。

オイル交換時期の設定

1. メインスイッチを**ON**にし、メータをオドメータ表示にします。
2. アジャストスイッチを約2秒以上押し、**INTERVAL**と**OILCHANGE**を点滅させます。このときオドメータは、前回リセット時のオドメータの数字を3回点滅表示したあと、現在のインターバル設定値を点灯表示します。
3. セレクトスイッチを押すと500kmずつ減り、アジャストスイッチを押すと500kmずつ増えます。

500 ↔ 1,000 ↔ …… 5,500 ↔ 6,000

4. セレクトスイッチとアジャストスイッチを約2秒以上押し設定完了です。オドメータが表示されます。

ⓘアドバイス

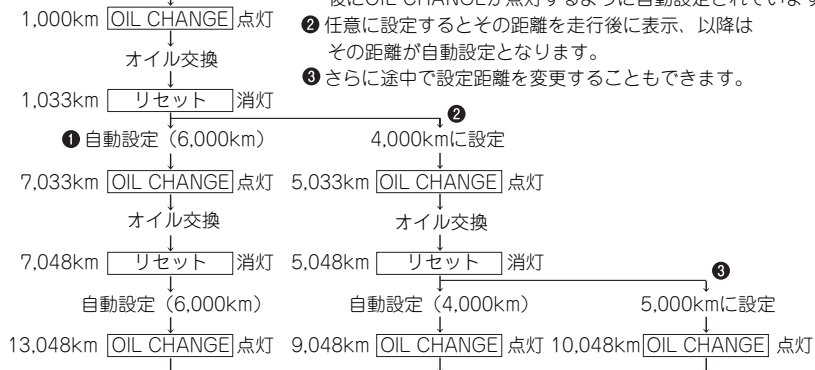
- 距離設定は、オドメータが1,000kmに達したあとに調整可能になります。
- オイルチェンジンジケータはオイル交換時期の目安を示すものです。メンテナンスノートに従って正しい時期にオイル交換をしてください。
- オイル交換のインターバルは、交換時期の設定をしてからではなく、リセットしからの距離を示します。
- 交換時期の設定中にメインスイッチをオフにした場合は、表示していた交換時期に設定されます。
- 交換時期の設定中に約20秒間操作がなかった場合は、表示していた交換時期に設定されます。

メータの見かた

ⓘアドバイス







オイル交換時期 設定例


- ① 特に設定しない場合は、初回1,000kmのあとは6,000km走行後にOIL CHANGEが点灯するように自動設定されています。
- ② 任意に設定するとその距離を走行後に表示、以降はその距離が自動設定となります。
- ③ さらに途中で設定距離を変更することもできます。



■ フューエルメータ

フューエルタンク内のガソリン残量の目安を表示します。

表示	ガソリン残量
	満タン
	.
	.
	.
	約1.8L
	約1.0L

■ 点灯 □ 消灯  点滅を表す

注記

フューエルタンク内のガソリンを使い切る(ガス欠)と触媒装置などの損傷の原因になります。ガソリンの残量に注意してください。

アドバイス

- サイドスタンド状態では、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。車体を垂直にした状態でキースイッチを ON にして確認してください。
- 表示が点滅したら、すみやかにガソリンを給油してください。

■ エンジン警告灯

エンジン警告灯はメインスイッチをONにすると表示し、エンジンが始動すると消えます。

- 燃料噴射機構に異常が起きると点灯または点滅します。
- バッテリー性能が低下すると早い点滅(3回1セット)を繰り返し、点検をうながします。

注記

エンジン警告灯が点灯または点滅したら、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

- エンジン警告灯が点滅している場合は、始動ができません。
- エンジン警告灯が点灯していても走行できない場合もあります。

メータの見かた

■ バッテリーインジケータ

バッテリー性能が低下すると点灯し点検を促します。

アドバイス

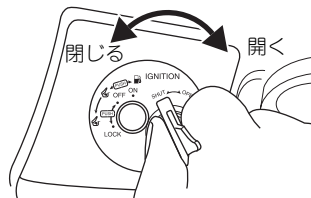
バッテリーの点検や充電は、スズキ販売店にご相談ください。

スイッチの使いかた

■ シャッタ付メインキー

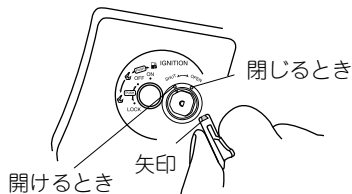
盗難やいたずら抑止のため、シャッタ付メインキーを装備しています。車から離れるときは、シャッタを閉じましょう。

キーのマグネット部に窓にはめ込み、左に回してシャッタを閉じます。
同様に右に回してシャッタを開けます。



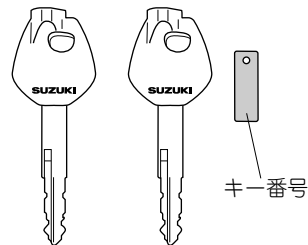
アドバイス

シャッタを閉じるときは右側のマーク、開けるときは左側のマークにキーの矢印を合わせてキーを回してください。



<キーの取扱い>

この車にはキーが2個と英数字のキー番号を印したプレートがセットされています。

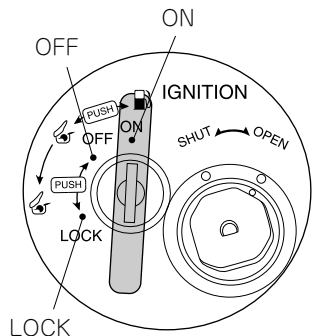


アドバイス

- スペアキーは大切に保管してください。
- キーを1本紛失・破損した際は、キーショップなどでスペアキーをもとに新しいキーを作ってください。全てのキーを紛失・破損したときは、シャッタおよびキーシリンダの交換などが必要になります。詳しくは、販売店にご相談ください。

■ メインスイッチ

電気回路のON-OFFをキーを回して行います。



ON

- エンジンの始動、走行ができます。
- 次のランプが点灯します。
[ヘッド、ポジション、テール、ライセンス、メータ]
- スイッチ、ランプ類が使えます。
[ターンシグナル、ホーン、スタータ、ハザード、パッシング、ディマ]
- キーが抜けません。

OFF

- エンジンが停止します。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。



- フューエルタンクキャップが開きます。



- シートロックが解除されます。

▲ 警告

- 走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながる可能性があります。キーは停車後操作してください。
- 衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。車両の異常により火災が発生したり、リアホイールなどの回転する部品に巻き込まれる可能性があります。転倒した場合は、すぐにメインスイッチをオフにして、すべての装置を停止させます。転倒したときに、見えない部分に損傷を受けている可能性があるため、スズキ販売店で点検を受けてください。

🔊 アドバイス

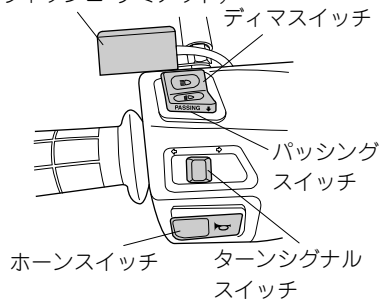
- メインスイッチONでヘッドランプなどが点灯するため、エンジンをかけずにONのままにしておくともバッテリーあがりの原因となります。
- 車から離れるときは、盗難抑止のためハンドルをロックし、必ずキーを抜いてお持ちください。

スイッチの使いかた

それぞれのスイッチはメインスイッチがONのとき作動します。

グリップヒータスイッチ

(スウィッシュ リミテッド)



■ ターンシグナルスイッチ

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折 ⇨

スイッチを⇨側に押すと、右側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

左折 ⇦

スイッチを⇦側に押すと、左側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

▲ 警告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されません。使用後は必ずスイッチを前に押し解除してください。点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。


🔊 アドバイス

ターンシグナルランプの電球(バルブ)に、正規ワット数以外のものを使用するとターンシグナルが正しく作動しません。必ず正規ワット数のものを使用してください。


■ デイマスイッチ

ヘッドランプの向きを切り換えます。

ハイビーム

スイッチを  側に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

ロービーム

スイッチを  側に押すと、ヘッドランプが下向きになります。

— 注 記 —

- ヘッドランプにはテープ類を貼らないでください。
- 停車中に、点灯したヘッドランプやテールランプを物でさえぎったり、衣類などを被せないでください。ランプの熱により、レンズが溶けたり、置いた物が損傷することがあります。

— アドバイス —

対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。

■ パッシングスイッチ

追い越しのときなどに、自車の存在を知らせます。デイマスイッチがロービームのときにスイッチを押すとハイビームが点灯します。

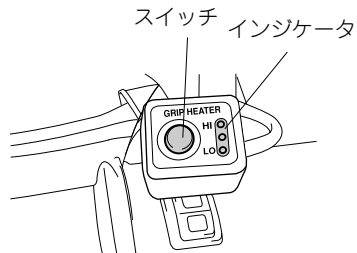
■ ホーンスイッチ

スイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。

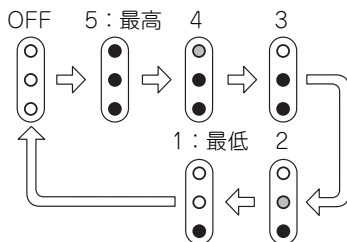
スイッチの使いかた

■ グリップヒータ (スイッチ リミテッド)

エンジンを始動し、スイッチを押すとグリップヒータが作動し、グリップを暖めることができます。
メインスイッチを**OFF**にすると、グリップヒータも**OFF**になります。



スイッチを押すごとにインジケータが次のように変わり、5段階に温度が調整できます。



< ●全点灯、○半点灯、○消灯 >

▲ 警告

走行中にスイッチを操作しないでください。走行不安定となり、転倒するおそれがあります。

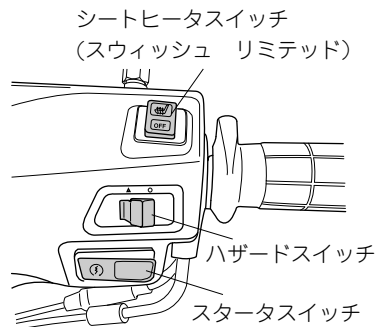
▲ 注意

- 必ず手袋を着用してください。素手ではやけどを負うおそれがあります。
- 外気温度が20℃以上のときは使用しないでください。グリップヒータが過熱してやけどを負うおそれがあります。
- グリップ表皮が摩耗したり、損傷した場合は交換してください。感電ややけどを負うおそれがあります。

アドバイス

- グリップヒータには、バッテリーあがり防止のために、電圧検出タイプの自動スイッチが組み込まれています。自動スイッチは、エンジンアイドリング時や徐行運転中などに、エンジン回転が下がり、バッテリー電圧が下がるとインジケータが点滅します。エンジン回転が上がると電源が入り、インジケータはもとの表示にもどります。
- インジケータが点滅するときは、バッテリー電圧が下がっています。バッテリーを充電するか、交換してください。グリップヒータスイッチをOFFにしても、バッテリー電圧が下がると、インジケータが点滅します。
- エンジンアイドリング時や徐行運転中などの、エンジン回転が下がっている場合、グリップヒータのスイッチをONに入れても自動スイッチがONにならないこともあります。

それぞれスイッチはメインスイッチがON
のとき作動します。



■ スタータスイッチ

ブレーキレバーを握り、スイッチを押すとスタータモータが回転し、エンジンが始動します。

この車は、スズキキーリースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチをワンプッシュするだけでエンジンを始動します。

注記

スタータスイッチを5秒以上押し続けたり、スズキキーリースタートシステムを連続で使用するなどしてスタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。

アドバイス

- サイドスタンド戻し忘れ防止装置により、サイドスタンドが出ているときはエンジンがかかりません。
- スタータスイッチを押すと、スイッチから手を放しても数秒間スタータモータが回り続けます。数秒が経過するか、エンジンが掛かるとスタータモータは止まります。

スイッチの使いかた

■ ハザードスイッチ

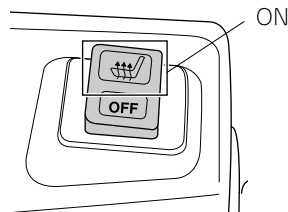
故障などの非常時に、停車するとき使用します。スイッチを△側に押すと、すべてのターンシグナルランプが点滅します。

△アドバイス

非常時以外は、使用しないでください。エンジン停止状態での使用は、バッテリーあがりの原因となります。

■ シートヒータ (スイッチ リミテッド)

メインスイッチをONにし、シートヒータスイッチをONにするとシートヒータが作動し、シート前側(運転席のみ)を暖めることができます。



▲警告

- 長時間連続して使用しないでください。比較的低い温度でも長時間皮膚の同じ個所に触れていると、熱い痛いなど自覚症状がなくても低温やけどをおこすおそれがあります。
- 改造はしないでください。発火し火災の原因となるおそれがあります。
- 異常が発生した場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。
- 走行中にスイッチを操作しないでください。

注記

- 重い物を置いたり、くぎなどで刺したりしないでください。
- シートの表皮を掃除するときは、ベンジン、ガソリンおよびアルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。
- エンジンが停止しているときは、スイッチを切ってください。バッテリーあがりの原因となります。
- バッテリーの消耗を抑えるため、適度に暖まったらスイッチを切ってください。

ハンドルロック

車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。

チェーンロックなどの併用もおすすめします。

<かけかた>

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押しながら OFF から LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

アドバイス

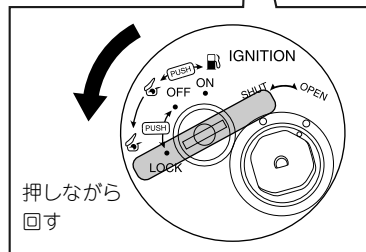
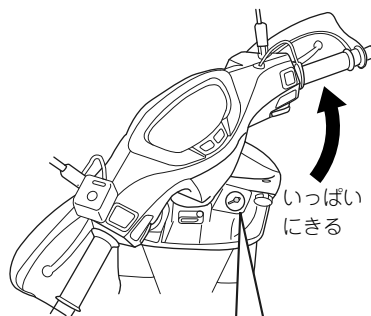
- ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。
- ロックがかかりにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回してください。

<外しかた>

キーを差し込み、押しながらOFFまで回します。

アドバイス

- 走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。

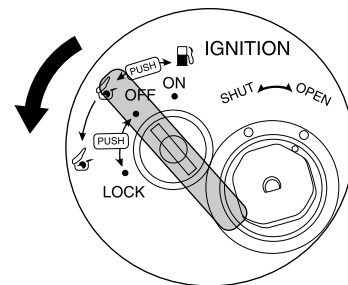


ハンドルロックのかけかた

シート

トランクの使用はシートを開けて行います。

1. メインスイッチにキーを差し込み、左に回してロックを解除します。
 2. シートの後部を持ち上げ、シートを開けます。
- シートを軽く押し下げるとシートロックがかかります。



シート

▲注意

シートがロックしたことを確認してください。シートロックがかからない状態で運転すると、走行に支障をきたすことがあります。

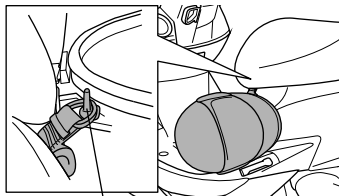
🗣️アドバイス

- シートを軽く持ち上げ、ロックがかかったことを確認してください。
- シート下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。

ヘルメットホルダ

ヘルメットの盗難抑止のため、ヘルメットホルダを使いましょう。

1. シートを開けます。
2. ヘルメットホルダにヘルメットの金具をかけます。
3. シートを閉じます。



ヘルメットホルダ

▲警告

ヘルメットホルダにヘルメットをつけたまま走行しないでください。運転の妨げになります。またヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

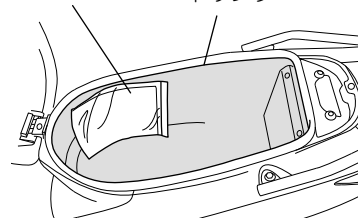
🗣️アドバイス

ヘルメットによっては、ヘルメットの形状やあごひもの長さにより、ヘルメットホルダに取り付けできないことがあります。

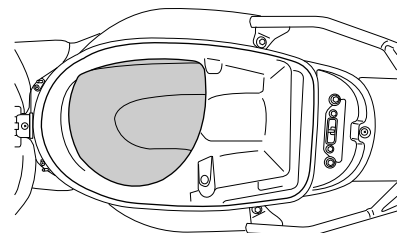
トランク

シートを開けるとトランクがあります。荷物の積載は10kgまでです。メンテナンスノートはビニール袋に入れてここに保管してください。

メンテナンスノート トランク

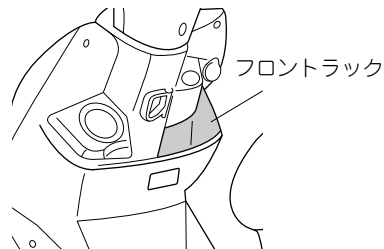


ヘルメットは図のように入れてください。



フロントラック

小物などを収納するラックを装備しています。荷物の積載は1.5kgまでです。

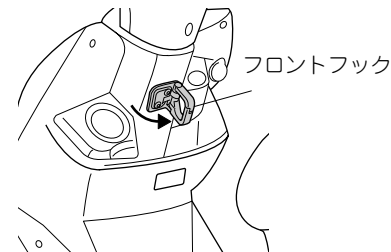


▲警告

フロントラックから荷物をはみださないでください。ハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。

フロントフック

買い物袋などを掛けることができるフックを装備しています。荷物の積載は1.5kgまでです。



▲警告

フロントフックには車体からはみ出したり、足に当たったりするような大きな荷物は掛けしないでください。走行やハンドル操作に支障をきたすおそれがあります。

▲注意

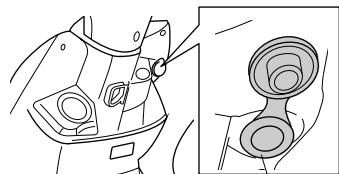
- トランク内はエンジンの熱や直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすいもの、食料品、可燃性のものは入れないでください。
- トランクに荷物を入れ過ぎると、シートを軽く押し下げてもシートロックがかからないことがあります。その時は、荷物を減らしてシートロックをかけてください。シートを強く押し下げてシートロックをかけると、ロック機構の破損の原因となります。

📌アドバイス

- 壊れやすいものは入れないでください。
- 車から離れるときは貴重品を入れたままにしないでください。
- 雨や洗車時などトランク内に水が入ることがあります。大切なものを入れる場合は、ご注意ください。
- ヘルメットは、その形状や大きさにより、トランクに入らない場合があります。

USBソケット

メインスイッチ右側にUSBソケットがあります。定格 5V 1Aまで使用できます。



USBソケット

注記

- USB ソケットは、携帯電話の充電専用です。他の電子機器の接続は、車の電気回路や接続した電子機器に損傷を与えるおそれがあります。
- USB ソケットに水が入るとショートの原因になります。洗車時や雨天時には、USB ケーブルを抜いてキャップを閉め、USB ソケットを使用しないでください。
- アイドリングやエンジン停止中に USB ソケットを使用すると、バッテリーあがりの原因になります。

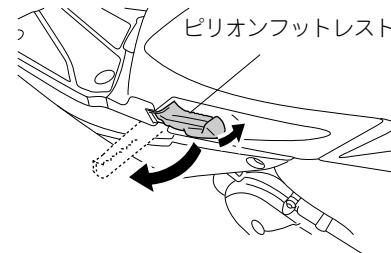
アドバイス

- USB ソケットを使わないときは、異物の侵入を防ぐためキャップを閉めてください。
- 定格値は一時的な容量です。バッテリーあがりを防ぐため長時間の使用は避けてください。

ピリオンフットレスト

車体下部に2人乗り用のフットレストがあります。出して使用します。

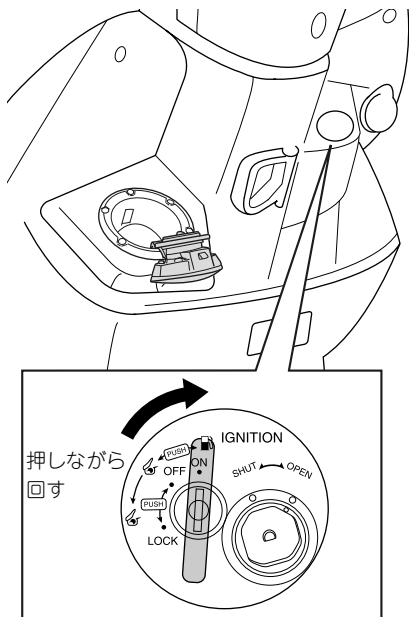
- 出すときは、フットレストを車体側に押します。
- 戻すときは、ロックするまで確実に戻します。



ピリオンフットレスト

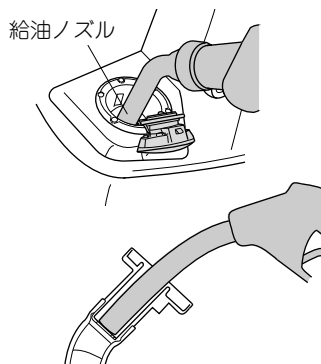
ガソリンの給油

1. サイドスタンドで駐車します。
2. メインスイッチにキーを差し込み、キーを押しながら右に回してロックを解除するとフューエルタンクキャップが開きます。



3. 給油口に給油ノズルが止まるまで差し込み、給油します。自動停止したら満タンです。

指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：5.5L



4. フューエルタンクキャップを閉めます。

▲警告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。
- 給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。
- 給油口に給油ノズルが止まるまで確実に差し込んだ状態で給油してください。差し込みが浅いと、燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- 給油が自動停止した後に、継ぎ足し給油をしないでください。給油しすぎると、キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。
- フューエルタンクキャップが開いた状態で、車を動かさないでください。ガソリンがこぼれる原因になります。
- こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。

ガソリンの給油

注記

- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他アルコール系の燃料、軽油など、また不適切な添加剤は、エンジン、触媒装置、燃料系統を損傷する原因となります。
- 給油時など、フューエルタンクに砂ほりや水などの異物が混入しないように注意してください。フューエルポンプの詰まりの原因となるおそれがあります。
- フューエルタンク内のガソリンを使い切る（ガス欠）と触媒装置などの損傷の原因になります。ガソリンの残量に注意してください。

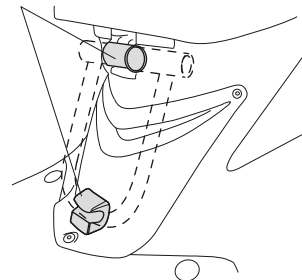
アドバイス

- 加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。そのときは、給油するガソリンスタンドを変えてみてください。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。
- センタースタンド状態で給油すると、サイドスタンド状態より給油量が少なくなります。
- 走行中、給油口付近より"ピー"という音がする場合があります。これはフューエルタンクの内圧調整バルブの作動音で、異常ではありません。

U字ロックホルダ

オプションのU字ロックを格納することができます。

U字ロックホルダ



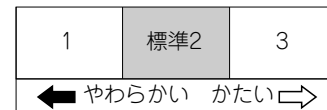
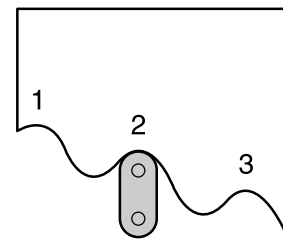
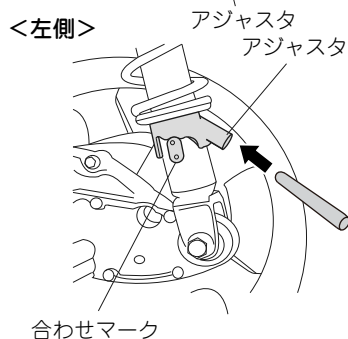
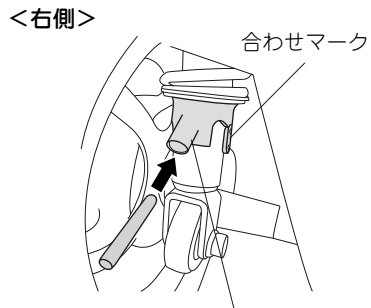
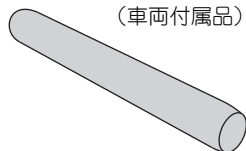
アドバイス

U字ロックの種類や形状、大きさなどにより格納できない場合があります。

リヤショックアブソーバ

■ スプリングの強さ

車両に付属している鉄棒、もしくは六角レンチ(6~8mm)などをアジャスタに差し込み、アジャスタを回します。



▲ 注意

やけどを避けるため、アジャスタの調整はマフラが冷えているときに行ってください。

注記

左右同じ位置に調整してください。

正しい運転操作

エンジンのかけかた

- ガソリン、オイル量を確認します。
- サイドスタンドを外し、メインスタンドを立ててください。
- 車の左側に立ってください。

▲警告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

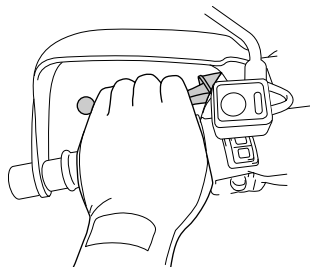
▲注意

メインスタンドを立てるときは、必ずサイドスタンドを外しておいてください。

📢アドバイス

- サイドスタンド戻し忘れ防止装置により、サイドスタンドが出ているときはエンジンがかかりません。またサイドスタンドを出すとエンジンは停止します。
- サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、注油してください。

1. 左手でリヤブレーキレバーを握ります。

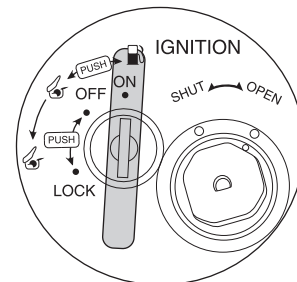


📢アドバイス

ブレーキをかけた状態でないと、エンジンはかかりません。

2. スロットルグリップを操作し、全閉から全開まで滑らかに操作でき、手を放すと滑らかに全閉に戻ることを確認します。

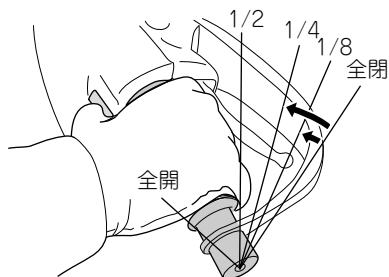
3. メインスイッチをONにします。



📢アドバイス

メインスイッチをONにすると、約3秒間FIの作動音がありますが、異常ではありません。

4. スロットルグリップは回さずに、スタータスイッチを押します。
この車は、スズキイージースタートシステムを装備しているため、スタータスイッチをワンプッシュするだけでエンジンを始動します。
- 2～3回スタータスイッチを押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8～1/4ほど回し、スタータスイッチを押します。エンジンがかかったら、スロットルグリップを戻してください。



注記

スタータスイッチを5秒以上押し続けたり、スズキイージースタートシステムを連続で使用するなどしてスタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。エンジンがかからなかったときは、バッテリー電圧を回復させるため、メインスイッチを一旦OFFにして、10秒くらい休んでください。

アドバイス

- スタータスイッチを押し、スイッチから手を放しても数秒間スタータモータが回り続けます。数秒が経過するか、エンジンが掛かるとスタータモータは止まります。
- 長期間エンジンをかけなかったときや、ガス欠しガソリンを給油したときは、エンジンがかかりにくいことがあります。このようなときはスロットルグリップを回さないでスタータスイッチを通常より多く使ってください。
- 不必要な空吹きはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなくエンジンや触媒装置に悪影響を与えます。
- スロットルグリップを約 2/3 以上回してスタータスイッチを押すと燃料、点火が停止し始動できないようになっていきます。

〈暖機運転は適切に〉

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（-10℃以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコ運転のため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

注記

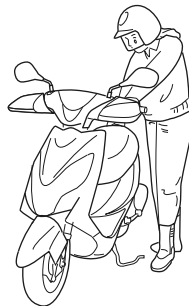
エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

注記

長時間のアイドリングはしないでください。オーバーヒートなどによる不具合の原因となります。

発進のしかた

1. メインスタンドを外します。
左手でリアブレーキレバーを握り、右手でリアキャリアを持ち、ゆっくり車を押してメインスタンドを外します。メインスタンドを外した後に、メインスタンドが完全に納まっているかを確認します。



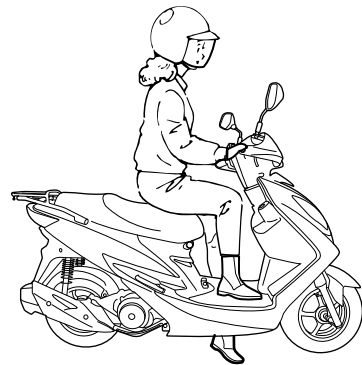
アドバイス

メインスタンドを立てたり、外したりするときは必ずリアキャリアを持ってください。シートは持たないでください。

2. 乗車します。

両手でハンドルを握り、車の左側から乗車しシートに腰をおろします。左足は地面につけて倒れないようにします。

走り出すまではむやみにエンジン回転を上げないでください。

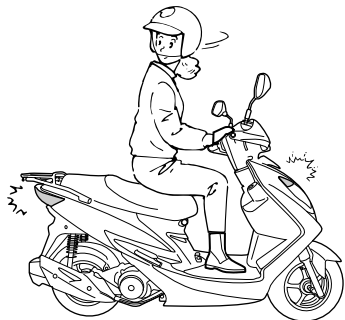


警告

飛び出し防止のため、リアブレーキレバーは発進するまでしっかりと握っててください。

3. 安全を確認します。

発進の合図（右側ターンシグナルランプの点滅）をし、前後の安全を確認します。

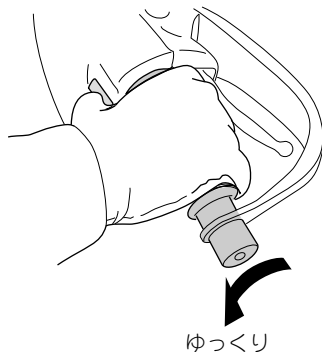
**アドバイス**

- 近くに人がいる場合、交通量の多い道路、夜間などでの発進には十分注意してください。
- 後方の車には特に注意しましょう。

4. 発進します。

リヤブレーキレバーを放して、スロットルグリップをゆっくり手前に回すと車は走り出します。

発進したらすみやかにターンシグナルランプを消してください。

**警告**

スロットルグリップを急激に回すと、急発進して事故を起こすおそれがあります。

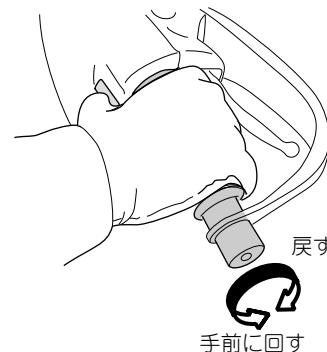
スロットルグリップでスピードを調整します。

手前に回す

- スピードが速くなります。
- ゆっくり回しましょう。

戻す

- スピードが遅くなります。
- すばやく戻しましょう。



発進のしかた

▲警告

走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

アドバイス

- むやみにエンジンの回転を上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。
- 法定速度を守って走りましょう。
- 走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。

「感情的な走りはいけません

心のブレーキを忘れずに！」

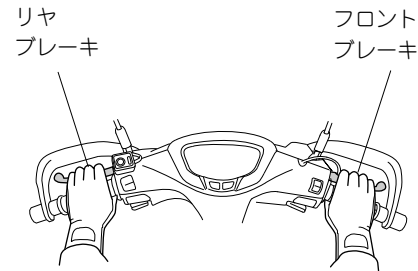
<ならし運転>

ならし運転を行うと、お車の寿命を延ばします。

- 最初の1,000kmを走行するまでは、スロットル開度1/2以下で走行してください。
- 新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。
- 不必要な空ふかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ブレーキの使いかた

ブレーキは前後同時に使い、エンジンブレーキを併用します。



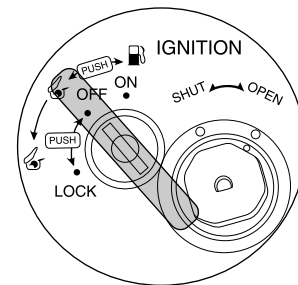
- スロットルグリップをすばやく戻してから、ブレーキレバーを握りましょう。
- 徐々にブレーキをかけスピードを落とすしていくのが上手なかけかたです。

<エンジンブレーキ>

スロットルグリップを戻すことによってエンジンブレーキが働きます。

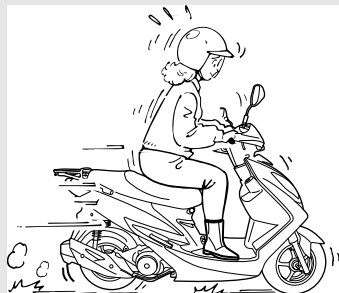
止まりかた

1. 合図を出します。
 - 早めにターンシグナルランプを点滅させ他の車に注意しながら、徐々に左に寄ります。
 - スロットルグリップを戻して前後ブレーキをかけます。ストップランプが点灯し後車への合図にもなります。
2. メインスイッチをOFFにします。車が完全に止まったら、ターンシグナルランプを消し、キーを**OFF**にします。



警告

- フロントブレーキまたはリアブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。
- 濡れた路面や雪道、凍った路面は、乾いた路面より制動距離が長くなります。早めにブレーキをかけてください。
- 長い下り坂などでは、ブレーキをかけ続けると、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。下り坂にさしかかる前に、十分減速してください。
- 不必要な急ブレーキは避けましょう。急ブレーキは横すべりや転倒の原因となります。



アドバイス

- 濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードを落とすとして余裕をもったブレーキ操作をしましょう。
- 洗車後や水たまり走行後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

止まりかた

3. スタンドを立てます。

交通の邪魔にならない平らな場所でメインスタンドを立てます。

- 左手でハンドルをまっすぐにし、右手はリアキャリアを持ちます。
- メインスタンドの足かけに右足をかけて体重をのせ、リアキャリアを引き上げます。



▲注意

メインスタンドを立てるときは、必ずサイドスタンドを外しておいてください。

注記

上り坂などで、アクセル操作でバランスを取るなどして車を停止させようとしないでください。クラッチが過熱し、故障の原因となります。

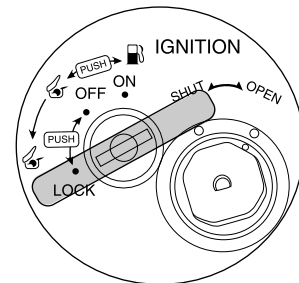
アドバイス

やわらかい路面や坂道などでは車が倒れないよう注意してください。

4. ハンドルロックをします。

車から離れるときは、盗難抑止のためハンドルロックをかけ、キーシャッタを閉じてください。

👉 25ページの「ハンドルロック」参照



▲注意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。他の人がマフラ、ブレーキ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。

アドバイス

盗難抑止のため、必要に応じてU字ロック等の盗難抑止ロックをしてください。盗難抑止ロックは車両を動かす前に、必ず外してください。

お車の点検

日常点検、定期点検

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐため、道路運送車両法で日常点検と定期点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

<日常点検>

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。

この車に適用される日常点検の項目は次ページをご覧ください。

<定期点検>

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

▲警告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因となることがあります。

📌アドバイス

- お車を使用しないときも定期点検は実施してください。
- お車を長期間休ませた後に使い始めるときは入念に点検することが大切です。

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検時期や点検内容などについて、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”“定期点検の解説”をご覧ください。
- 初期(1か月)点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

▲警告

点検は、安全に十分注意してください。

- 平坦な足場のしっかりした場所で、メイスタンドを立ててください。
- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。
- 排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。
- 点検、整備を行うときは火気厳禁です。
- 走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。
- 異常が認められたときは、ご自身またはスズキ販売店で確実に整備してからお乗りください。

日常点検項目

ブレーキ

- ブレーキレバーの遊び
- きき具合
- ブレーキ液の量

タイヤ

- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

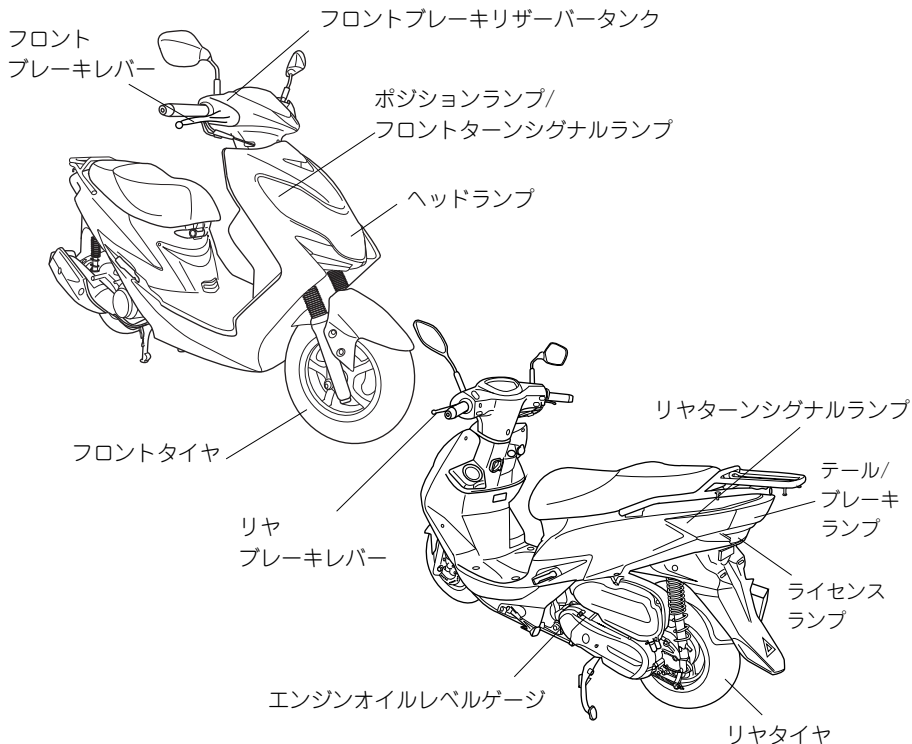
エンジン

- エンジンオイルの量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

灯火装置、方向指示器（ランプ類）

運行において異常が認められた箇所

<日常点検・部品配置>



簡単な整備

簡単な整備

ここでは、通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

▲ 警告

- 整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。
- 平坦な足場のしっかりした場所で、メインスタンドを立ててください。
- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。
- 点検、整備を行うときは火気厳禁です。

注 記

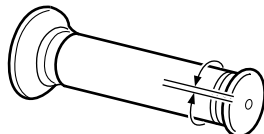
- 整備はエンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。
- 適切な工具を使用しましょう。
- スイッチにグリスを塗ったり、油を注したりしないでください。故障の原因となります。

⚠️ アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

スロットルケーブル

■ スロットルケーブルの点検

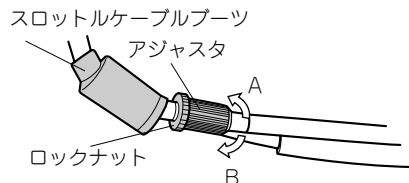


2~4mm

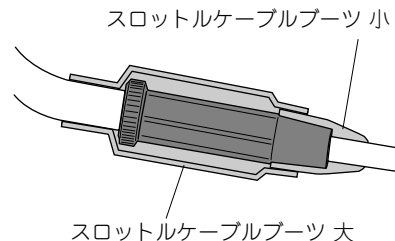
メインスイッチをOFFにした状態で、スロットルグリップを操作し、スムーズに操作できるか、ハンドルを左右いっぱいに切った状態でも操作が重くないか、傷や損傷が無いかが点検します。また、スロットルグリップを操作し、スロットルケーブルの遊びの量が、2~4mmの範囲内にあるかを確認します。遊びの量が範囲から外れている場合は、調整してください。

■ スロットルケーブルの遊びの調整

1. アジャスタにより遊びを調整します。スロットルケーブルブーツをずらし、ロックナットをゆるめます。アジャスタをAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。



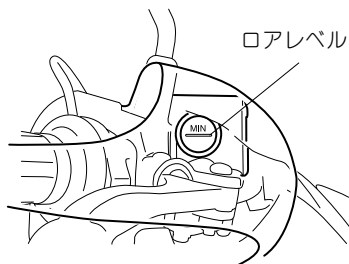
2. 調整後は、スロットルケーブルブーツ小を奥までしっかりと差し込んだ状態で、スロットルケーブルブーツ大の先端をかぶせます。



フロントブレーキ

■ ブレーキ液の量の点検

平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベルより上にあるかを点検します。液面がロアレベル以下の場合はブレーキパッドの摩耗点検を行ってください。



▲ 警告

ブレーキ液は安全のため2年毎に交換してください。

指定ブレーキ液：

スズキブレーキフルードDOT4
(JIS BF-4)

▲ 警告

- ブレーキ液の減りが著しいときはブレーキシステムの液漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。
- ブレーキ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

▲ 注意

- 化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。
- リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう注意してください。
- ブレーキ液の入れ過ぎに注意してください。あふれ出るおそれがあります。

⚠️ アドバイス

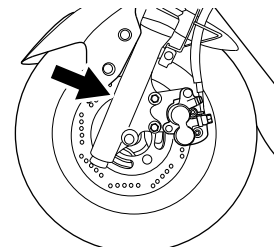
- ブレーキ液は塗装面やプラスチックおよびゴム類を損傷させます。付着したらすぐにふき取ってください。
- ブレーキ液面はブレーキパッドの摩耗と共に、下がっていきます。

■ ブレーキパッドの摩耗の点検

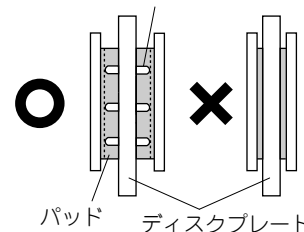
ブレーキキャリアをのぞいて、パッドの摩耗を点検します。

摩耗限度溝がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約1mmになったら）、パッドを交換してください。

前からのぞく



摩耗限度溝



フロントブレーキ

▲警告

ブレーキパッド交換後、ブレーキレバーを正規のタッチになるまで、数回ストロークしてください。

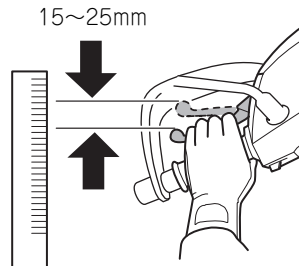
📌アドバイス

- ブレーキパッドは左右同時に交換してください。
- 新しいブレーキパッドは、きき具合が違います。慎重な運転を心がけてください。
- ブレーキパッドの交換は、スズキ販売店にご相談ください。

リヤブレーキ

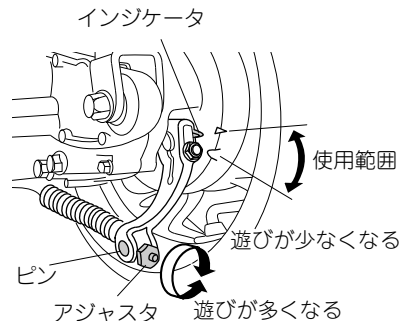
■ ブレーキレバーの遊びの点検

抵抗を感じるまでブレーキレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。規定の範囲から外れている場合は調整してください。



■ ブレーキレバーの遊びの調整

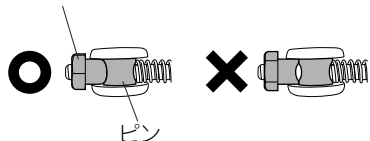
ブレーキカムレバー部のアジャスタにより遊びを調整します。アジャスタを右に回すと遊びが少なく、左に回すと遊びが多くなります。



⚠️アドバイス

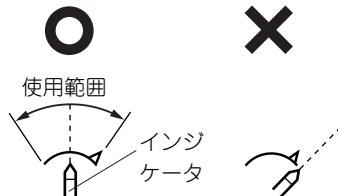
アジャスタ凹部をピンに合わせてください。走行中にブレーキの遊びが変化することがあります。

アジャスタ



⚠️アドバイス

- 調整後、遊びが規定の範囲内にあるかを確認してください。
- ブレーキレバーをいっぱい握ったときインジケータの延長線が使用範囲から外れる場合はブレーキシューの使用限度です。ブレーキシューが使用限度になったら交換してください。ブレーキシューの交換は、スズキ販売店にご相談ください。



エンジンオイル

■ エンジンオイル量の点検

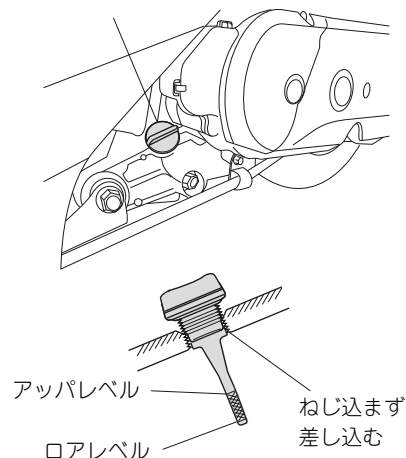
エンジンオイルは、走行距離や走行状況、時間の経過などの要因により劣化したり消費して減っていきます。そのため、定期交換時期に行う交換だけではなく、日常点検による点検・補給が必要です。汚れたり劣化したオイルはエンジンに悪影響を与えますので、早めに交換してください。エンジンオイルの交換についてはスズキ販売店にご相談ください。

1. 平坦地でメインスタンドを立て、エンジンを2~3分間アイドル回転し、エンジンを停止します。
2. 2~3分後、オイルレベルゲージを外し、付着したオイルを布などでふきまします。
3. オイルレベルゲージをねじ込まず差し込みます。

4. オイルがオイルレベルゲージのアップレベルとロアレベルの間にあるかを点検します。オイル量がアップレベル以上またはロアレベル以下の場合、アップレベルとロアレベルの間になるよう調整してください。

- オイル量がロアレベル以下の場合、オイルを補給してください。
- オイル量がアップレベル以上の場合、オイルを抜くなどして調整してください。オイルを抜く方法については、スズキ販売店にご相談ください。

オイルレベルゲージ



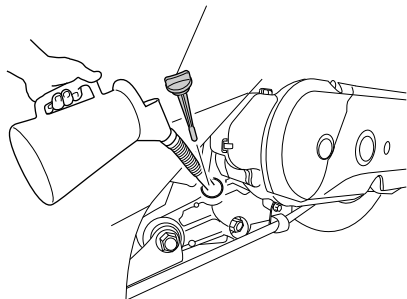
▲注意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、ブレーキ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

■ エンジンオイルの補給

1. 平坦地でメインスタンドを立て、エンジンを2～3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 2～3分後、オイルレベルゲージを外します。
3. アップレベルとロアレベルの間に油面がくるように補給します。
4. オイルレベルゲージを確実に取り付けます。

オイルレベルゲージ



推奨オイル： スズキ純正オイル

オイル	規格	SAE	API
エクスター R9000 MA2		10W-40	
エクスター R5000 MA2		10W-40	
エクスター R5000 MB スクーター		10W-40	
エクスターオイル スーパーデラックス		10W-40	SE

推奨オイルが入手できない場合は、次の規格を満足するエンジンオイルを使用してください。

SAE	API	JASO
10W-40	SG, SH, SJ, SL, SM, SN	MB

エンジンオイル交換時期：

初回1か月または1,000km
以降6,000kmまたは1年ごと

▲ 警告

エンジンオイルを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

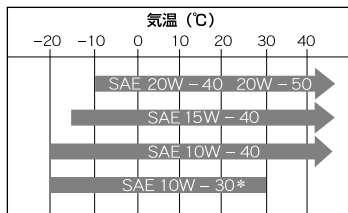
▲ 注意

- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因となることがあります。
- 作業前に オイルジョッキの内部等にほこりや泥、異物等が付着していないことを確認し、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。

エンジンオイル

アドバイス

- SAE10W-40のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。



*APIがSG,SH,SJ,SLのもの

- オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。

アドバイス

JASO規格について

- JASO T903は、4サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。
- 二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。
- MAとMBの分類があり、本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。



← オイル販売会社の整理番号

← 性能分類の表示
MB分類を示す

JASO T 903:2016適合品

本MB性能の品質保証者

スズキ株式会社

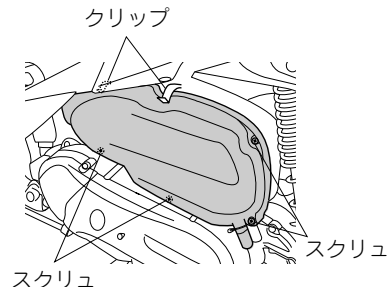
エアクリーナ

■ エアクリーナエレメントの点検

1年毎に点検してください。

ほこりが多い場所を走行する機会が多い場合は、6か月毎に点検してください。

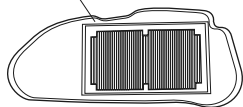
1. スクリューとクリップを外し、エアクリーナキャップを取り外します。



スクリュー

2. エアクリーナエレメントを取り出し、目視により点検します。ポリウレタン製のエアクリーナエレメントに汚れや詰まりがある場合は清掃し、紙製のエアクリーナエレメントに汚れや詰まりがある場合は交換してください。

紙製エアクリーナ
エレメント



ポリウレタン製エアクリーナ
エレメント

注 記

- エアクリーナエレメントに劣化や損傷がある場合は交換してください。
- エアクリーナエレメントおよびエアクリーナキャップの取り付けが不完全な場合、ゴミやほこりを吸入しエンジンに悪影響を与えます。
- 洗車時、エアクリーナエレメントに水がかからないようにしてください。また、エアクリーナボックス内に水が入らないようにしてください。

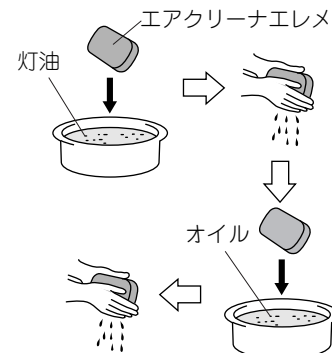
■ ポリウレタン製エアクリーナ エレメントの清掃

1. きれいな灯油で洗い、しぼってから乾燥させます。
2. きれいなオイルに浸し、しぼってオイルを浸透させます。

推奨オイル：

スズキエクスターオイルスーパー
デラックス

標準オイル塗布量：約3g（参考）



3. エアクリーナエレメントを取り付けます。

エアクリーナ

▲注意

ガソリンや引火点の低い洗浄剤は、非常に燃えやすいため、エアクリーナエレメントの清掃には使用しないでください。

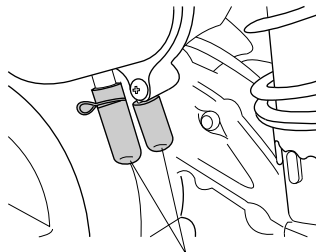
👉アドバイス

エアクリーナエレメントをしぼるときは、ねじらないで両手で押さえるようにしてください。

■ エアクリーナドレンチューブの清掃

1年毎に、エアクリーナドレンチューブに、水やオイルがたまっていないか点検してください。汚れや水がたまっている場合は、エアクリーナドレンチューブを清掃します。

1. エアクリーナドレンチューブの下に、受け皿を用意します。
2. エアクリーナドレンチューブを外し、エアクリーナドレンチューブにたまっている汚れや水を取り除きます。
3. エアクリーナドレンチューブを確実に取り付けます。



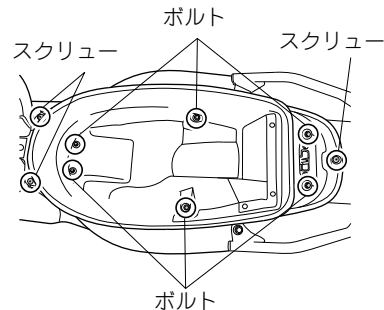
エアクリーナドレンチューブ

ヒューズ

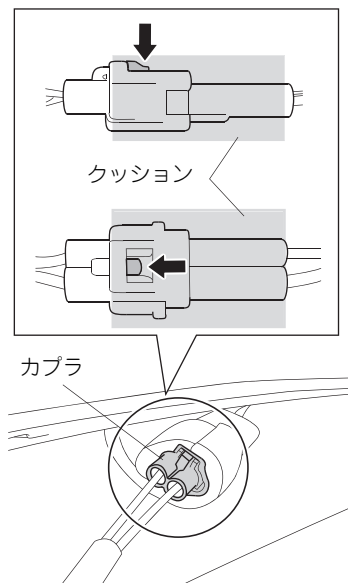
■ ヒューズの点検

<メインヒューズ>

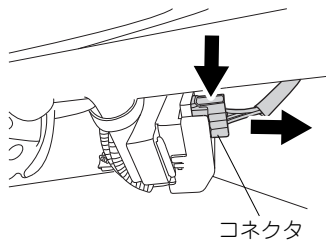
1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. シートを開けます。
☞ 25 ページの「シート」参照
3. スクリューとボルトを外します。



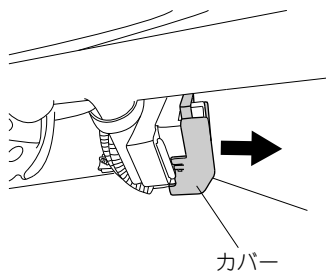
4. トランク裏のシートヒータのカブラを取り外します。カブラは、クッションの上からツメを押し込み外します。(スイッチ リミテッド)



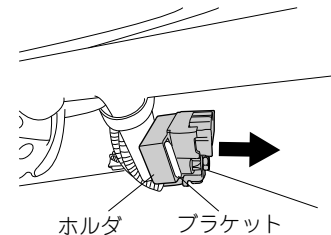
5. シートとトランクを取り外します。
6. スタータリレーのコネクタ上部を押し込みながら外します。



7. スタータリレーボックスのカバーを外します。



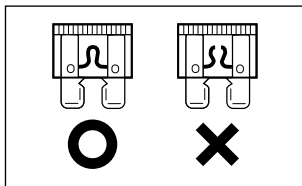
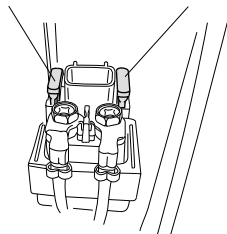
8. スタータリレーとゴム製ホルダをブラケットから抜きます。



ヒューズ

9. ヒューズを引き出して点検します。
10. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

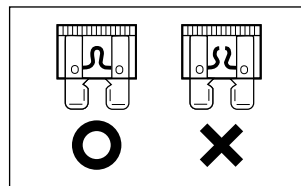
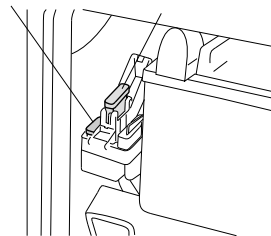
ヒューズ スペアヒューズ



<ヒューズ>

1. メインスイッチをOFFにします。
2. シートを開けます。
☞25 ページの「シート」参照
3. バッテリーカバーを取り外します。
☞53 ページの「バッテリー」参照
4. ヒューズボックスを開け、ヒューズを引き出して点検します。
5. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

スペアヒューズ ヒューズ



▲警告

指定容量を超えるヒューズは、配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

注記

- 電装品類（ランプ、計器など）を取り付ける時はスズキ純正用品をご使用ください。それ以外の物を使用するとヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時、ヒューズボックスのまわりに水を強く吹きつけることは避けてください。

アドバイス

ヒューズが切れたときは原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

バッテリー

■ バッテリーの点検

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリーを使用しています。バッテリー液の点検、補給は必要ありません。ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、取り外して清掃してください。

▲警告

- バッテリーを取り扱う前に、バッテリーに貼付されている注意文をよく読んでください。
- バッテリーには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると重いやけどを負うおそれがあります。
- バッテリーは引火性ガスを発生します。火気を近づけないでください。
- バッテリーは、子供の手の届くところに置かないでください。
- 乾いた布でバッテリーをふかないでください。静電気が発生して引火するおそれがあります。

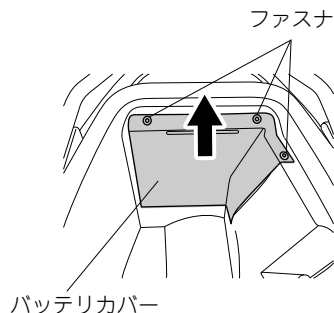
＜バッテリー液が付着した場合は・・・＞

- 目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。
- 万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。

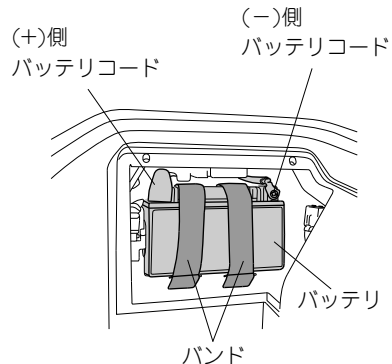
バッテリー

■ バッテリーターミナル部の清掃

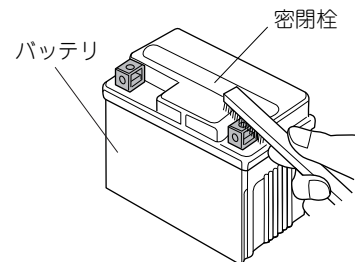
1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. シートを開けます。
📄 25 ページの「シート」参照
3. ファスナを外しバッテリーカバーを取り外します。



4. (-)側バッテリーコード、(+)側バッテリーコードの順に外します。
5. バッテリーを固定しているバンドを外し、バッテリーを取り外します。



6. ターミナル部に白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いでふきます。腐食が著しいときは、ワイヤブラシかサンドペーパーで磨いてください。



7. 清掃後、ターミナル部にグリスを薄く塗り、バッテリーを取り付けます。

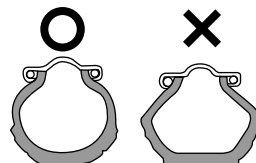
アドバイス

- バッテリーコードを外すときは、必ずメインスイッチを OFF にし、(-) 側を先に外してください。取り付けるときは (+) 側を先に取り付けます。
- ターミナル部にゆるみが生じないように締め付け、(+) 側ターミナルカバーを確実に取り付けてください。
- 密閉栓は取り外さないでください。
- バッテリーを交換するときは、同一型式のメンテナンスフリーバッテリーと交換してください。
- 長期間使用しない場合は、3ヶ月ごとに補充電してください。詳細は P.60 のアドバイスをご覧ください。

タイヤ

■ 空気圧の点検

タイヤが冷えているときに、タイヤゲージで規定の空気圧かを点検します。たわみ状態が異常な場合は、タイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して空気圧を点検し、適切な空気圧にしてください。



タイヤ空気圧

1名 乗車時	前	175kPa
	後	200kPa
2名 乗車時	前	175kPa
	後	250kPa

▲ 警告

不適正な空気圧での使用や、すり減ったタイヤの使用は、転倒事故などの原因となります。適正な空気圧を守り、すり減ったなら交換してください。

タイヤ

■ 亀裂、損傷、異物の点検

タイヤの接地面および側面の全周に、亀裂や損傷が無いかを確認します。

また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。



■ 異常摩耗の点検

タイヤの接地面が、異常に摩耗していないかを確認します。異常に摩耗している場合は、スズキ販売店へご相談ください。

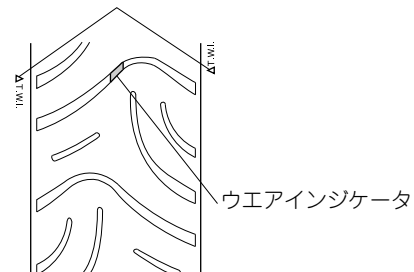


■ 溝の深さの点検

ウエアインジケータがあらわれていないかを確認します。

ウエアインジケータがあらわれたときは、タイヤを交換してください。

ウエアインジケータ
表示マーク



アドバイス

コーナリングや操縦安定性などの安全走行のために、早めのタイヤ交換をおすすめします。溝の深さは、前1.6mm、後1.6mm以上が望ましいです。

■ タイヤの交換

タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	サイズ	100/90-10 56J
	種類	MAXXIS M-6029
後	サイズ	100/90-10 56J
	種類	MAXXIS M-6029

▲ 警告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。必ず指定タイヤを取り付けてください。

📢 アドバイス

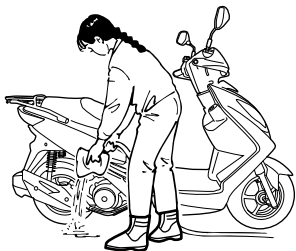
新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

お車の手入れ

洗車

お車を長持ちさせるため常に清掃をしましょう。泥道やホコリの多いところを走行した後は、すみずみまで洗車しましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。海水に含まれる塩分や融雪剤は金属を錆びやすくします。海岸付近や融雪剤を使用した道路を走行した後は、必ず洗車してください。

1. 冷水をかけながら、スポンジまたはやわらかい布で汚れをおとします。
2. ひどい汚れは、中性洗剤を使用して水で洗い流します。
3. 乾いた柔らかい布で、水分をふき取ります。車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやスタンドの取り付け部ヘグリースなどを注油し、サビ予防のためにワックスがけを行ってください。



注記

- 洗車はエンジンが冷えているときに行ってください。
- 高圧洗車機やスチーム洗車機は使用しないでください。可動部や電装部品の作動不良や故障の原因となる事があります。
- 洗車時、マフラ、エアクリーナや電装品に水が入らないよう注意してください。水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。
- 洗車後はブレーキのきき具合が悪くなる場合があります。この場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。
- シート下から強く水をかけないでください。内部へ水が入り、書類等がぬれるおそれがあります。

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり流したりしないでください。

- メインスイッチ
- スパークプラグ
- フューエルタンクキャップ
- フューエルインジェクションシステム
- ブレーキマスターシリンダ
- スロットルケーブルのブーツ

アドバイス

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 洗車後や雨天走行後にヘッドランプのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドランプを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリー上がりを防ぐために、エンジンを掛けながらヘッドランプを点灯させてください。
- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分を拭き取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

メータディスプレイ

メータディスプレイを清掃するときは、水で濡らした柔らかい布でやさしくふいてください。

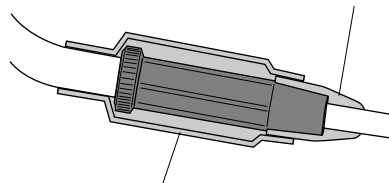
アドバイス

乾いた布で強くふくと、ディスプレイに傷がつくおそれがあります。水で濡らした柔らかい布を使いメータディスプレイを清掃してください。

スロットルケーブルブーツ

スロットルケーブルには、ブーツが取り付けられています。ブーツが確実に取り付けられていることを確認してください。洗車時には、ブーツに直接水をかけないようにしてください。ブーツが汚れている場合は、水で濡らした布でふき取ってください。

スロットルケーブルブーツ 小



スロットルケーブルブーツ 大

アドバイス

ブーツが上記のように取り付けられていない場合は、P.42を参考に取り付け直してください。

つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- 使用中の摩擦や表面を擦り過ぎたり強く磨くと、つや消し表面が変化することがあります。

アルミホイール

アルミホイールは、塩分などの汚れを嫌います。アルミホイールの美しさを保つため、定期的に（週に一度くらい）清掃しましょう。

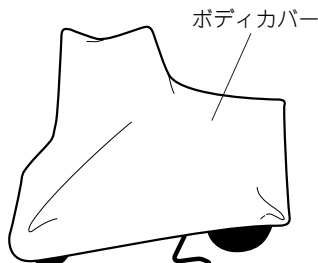
1. 中性洗剤をスポンジに含ませて、汚れを落とします。
2. 十分に水洗いをして、乾いた布で水分を拭き取ります。

アドバイス

- アルミホイールは、傷がつきやすいため、みがき粉、硬いブラシや金属タワシなどの硬いもので擦ったり、当てたりしないでください。
- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに水洗いをして乾いた布で水分を拭き取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

保管のしかた

できるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外の場合は、ボディカバーをかけるようにしてください。




アドバイス

ボディカバーは、エンジンやマフラが冷えてからかけてください。

アドバイス

長期間乗らない場合は、次の事項をお守りください。

- 保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。
- バッテリーは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し完全充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は、ターミナルを外してください。

※充電については、スズキ販売店にご相談ください。

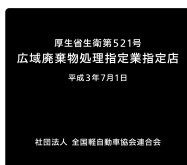
環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリー、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

◆ 廃棄二輪取扱店とは

廃棄二輪取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。

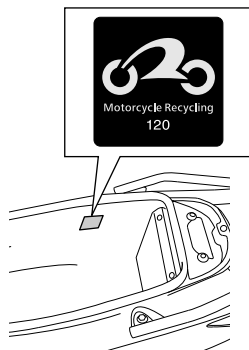
廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪取扱店の証

◆ 二輪車リサイクルマークとリサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。



◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。

リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、下記のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。

(財)自動車リサイクル促進センター
ホームページ：<http://www.jarc.or.jp/>

サービスデータ

主要諸元

項目		諸元	
長さ		1,830mm	
幅		690mm (スイッチュ)	740mm (スイッチュ リミテッド)
高さ		1,095mm	
軸距		1,250mm	
車両重量		114kg (スイッチュ)	115kg (スイッチュ リミテッド)
乗車定員		2人	
タイヤサイズ	前	100/90-10 56J	
	後	100/90-10 56J	
最小回転半径		2.0m	
エンジン形式		4サイクル・単気筒	
冷却方式		強制空冷	
燃料供給方式		フューエルインジェクション	
総排気量		124cm ³	
内径×行程		52.5×57.4mm	
アイドリング回転速度		1,500rpm	
最高出力		6.9kW/7,000rpm	
最大トルク		10N・m/6,000rpm	

項目		諸元	
クラッチ形式		乾式シュー・自動速心式	
トランスミッション		ベルト・自動	
減速比	1次	2.470	
	2次	3.461	
変速比		2.645~0.801	
ブレーキ形式	前	シングルディスク	
	後	リーディングトレーリング	
フューエルタンク容量		5.5L	
点火方式		フルトランジスタ式・ バッテリー点火	

サービスデータ

項目	調整値
リヤブレーキレバーの遊び	15~25mm

タイヤ 空気圧	1人 乗車時	前	175kPa
		後	200kPa
	2人 乗車時	前	175kPa
		後	250kPa

エンジン オイル量	オイル交換時	0.65L
	全容量	0.8L

スパーク プラグ	種類	NGK	CPR7EA-9
		DENSO	U22EPR9
	ギャップ	0.8~0.9mm	

バッテリー	種類	FTX7A-BS メンテナンスフリー
	容量	12V— 6Ah

ランプ	ヘッドランプ H/L	LED
	ストップ/テール	LED
	ターンシグナル	12V 10W
	ポジションランプ	LED
	ライセンスランプ	LED

ヒューズ	10A,20A
------	---------

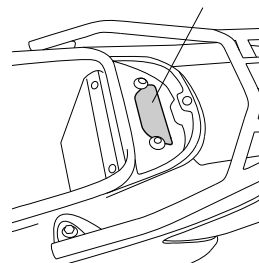
車台番号

アフターサービスなどを的確に行うため、お車の車台番号を記入しておいてください。

機種	スイッチ / スイッチ リミテッド
車台番号	

車台番号はシート下に打刻してあります。

車台番号打刻位置



お車やサービスなどについてのご相談、ご意見がございましたら、お買いあげのスズキ販売店またはメンテナンスノート巻末に記載されている、お近くのスズキ二輪代理店にお申しつけください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認のうえ、ご相談ください。

- ① 機種、型式、車台番号
- ② 購入年月日 ④ 相談事項
- ③ 走行距離 ⑤ ご住所、お名前、電話番号

お買いあげの販売店

[TEL]

スズキ株式会社の窓口は…
〒432-8611 浜松市南区高塚町300

スズキ株式会社

お客様相談室

◆ フリーダイヤル ☎ 0120-402253

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いにつきましては、スズキ株式会社のホームページに掲載していますのでご覧ください。
(<http://www.suzuki.co.jp>)

こんなときは、スズキ販売店に持ち込む前に次のことを調べてみてください。

エンジンがかからない

- かけかたは取扱説明書どおりですか
- ガソリンは入っていますか

ブレーキがきかない

- ディスクブレーキはブレーキパッドの摩耗、ドラムブレーキはブレーキレバーの遊びを点検してください

ランプ類が点灯しない

- ヒューズが切れていないかを点検してください



再生紙、植物油インクを使用しています。